

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-72C	17-016	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Smoking and alcohol and subsequent risk of myelodysplastic syndromes in Japan: the Japan Public Health Centre-based Prospective Study. 日本における喫煙および飲酒と骨髄異形成症候群の罹患リスクに関する研究：国立がん研究センターにおける前向きコホート研究		
執筆者		
Ugai T, Matsuo K, Sawada N, Iwasaki M, Yamaji T, Shimazu T, Sasazuki S, Inoue M, Kanda Y, Tsugane S; Japan Public Health Centre-based Prospective Study Group.		
掲載誌		
Br J Haematol. 2017 Sep;178(5):747-755. doi: 10.1111/bjh.14749.		
キーワード		PMID
喫煙、飲酒、骨髄異形成症候群、日本人一般住民、縦断研究		28714213
要 旨		
目的： 喫煙および飲酒習慣と骨髄異形成症候群（MDS）との関連についての研究は少ない。また、欧米人とアジア人とは MDS の発症率や好発年齢に違いがあるため、欧米人に加えアジア人を対象とした疫学研究が必要である。本研究は日本の地域住民を対象に、喫煙および飲酒と MDS の罹患リスクとの関連について検討した。		
方法： 日本人一般住民 95,510 名（男性 45,451 名、女性 50,059 名、ベースライン時の年齢：40-69 歳）を 18.3 年間追跡した。喫煙習慣は生涯非喫煙、禁煙、現在喫煙者に分類し、さらに喫煙歴のある対象者を 30 箱・年未満および以上に分けた。飲酒習慣は非飲酒、機会飲酒、0-299g/週、 ≥ 300 g/週の飲酒者に分類した。統計解析は交絡因子を調整した Cox 回帰モデルを用いた。		
結果： 追跡期間中に 70 名（男性 50 名、女性 20 名）の MDS の発症を確認した。男性において喫煙と MDS リスク上昇との関連は統計学的にはわずかに有意でなく、生涯非喫煙者に対する喫煙者のハザード比は 2.11（95%信頼区間:0.91-4.89）であった。それに対して、飲酒に関しては男性で用量依存的に MDS リスク低下と関連を認めた。非飲酒者に対するハザード比（95%信頼区間）は、機会飲酒者、0-299g/週、 ≥ 300 g/週の飲酒者でそれぞれ 0.48(0.16-1.41); 0.37,(0.19-0.73); 0.49,(0.22-1.08)であった（傾向性 P=0.010）。		
結論： 日本人男性において、飲酒は MDS リスクの低減と有意に関連していた。一方、喫煙に関しては欧米人と同様に、日本人男性においても MSD リスクを高める可能性が示唆された。		